

教務だより

2011年2月号
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

努力は、報われる！

茗溪塾塾長 宇野雅春

早朝、真っ暗な中で目を覚まし、旗と腕章を持って試験会場に向かう日が続いています。いつもは夜型の仕事なのに、完全に朝型です。帰ってきてからは、前日の入試の合格発表待ち。教務の会議や教室の打ち合わせもありつつ、生徒が戻ってきてからは、入試問題を解いて模範解答を作るという仕事が入ります。生徒との答え合わせをしながら、次の日受験する生徒からの質問も受けます。

中学入試は完全に終わりましたが、今年の特徴は、最後の最後まで、塾に来て勉強する生徒がたくさんいたということです。次の日試験でも、ぎりぎり、7時くらいまでは、塾で勉強をしてくれた生徒が多かったと思います。執念の合格もたくさんありました。第一志望に残念ながら届かず、無念の涙の生徒もいましたが、落ち着いて振り返ってみれば、悔いのない受験ができたように思います。ぱったりと終わってしまった中学入試で虚脱感に襲われる先生達も少なくありません。私も入試前日、今日が最後の授業だ…と思いながら、授業に臨んだことを思い出します。

生徒の方は、あまり感じていないのですが、あんなに頑張った受験勉強も、受験が終わってしまえば、永久に…ないという事。今は一瞬一瞬が鮮明に思い出されます。

中学入試と並行して始まった高校入試は、今最後の追い込みに入っています。併願校の合格で緩む生徒や、なかなか合格が出ず焦る生徒たちと苦楽を共にしつつ、ここでは共同作業の充実感があります。合格も友達に気遣ってか、声高に叫ぶこともなく、入試から帰ってきた生徒の問題を一緒に解いて、採点を手伝う生徒もいます。入試最終盤のこの充実した雰囲気は毎年のことですが、来月初めにはほぼ終了となります。

大学受験も真っ最中、朝早くから自習室を使う生徒たちがたくさんいます。合格、不合格、悲喜こもごもですが、ここには決して辛いだけではない「努力」の形があります。

一人一人は内心穏やかでないことも多くあるのですが、全体としては、むしろ「楽しい」と言っている状況です。先生たちも、非常に厳しいと感じるのは、朝起きた瞬間だけで、動いているときは、辛さを忘れます。合格発表さえなければ、こんなに楽しい仕事はありません。ただ、私達は、その楽しさも「不合格」ともなれば、強い後悔の念を引き起こすことを知っています。だから、必死になります。

不合格を告げる電話の向こうで、泣いてしまう生徒もいます。「ばか！泣いてる場合じゃないだろ！次の準備があるだろ！」と返ししながら、めげているのは先生の方で、けろっとして現れる生徒に逆に救われたりします。「受験を思いっきり楽しもう！」というスローガンは、場違いな感じですが、実はあたっています。辛い勉強をあと一歩と頑張っている中にも必ず「喜び」や「笑い」があります。中学入試では、不合格で泣き、合格で泣き、ほんとに自分がボロボロになるような気持ちを体験しました。高校入試は、今入試の前哨戦が終わったところ、長かった受験の最終盤に入ります。この最終盤が一番大切です。なぜなら、第一志望校がほとんどだからです。大学入試も国立まで、最後の追い込みです。この激しい日々の中で、「気を抜かず最後をやりきる」ことが、ここからのテーマです。

「努力は必ず報われる！」入試の最中はわからないかもしれませんが、必ずわかる時がきます。受験の結果は、生徒一人一人の努力の結果です。その結果を導くためにどんなサポートが有効なのかが私達の課題です。主役はあくまでも生徒ですが、トレーナーだったり、コーチだったり、そして時には友達だったりして、はたから見れば、空回りしているような私達も、ほんとは、喘ぎながら、本気であれば、実はやって行けないような状況下にあります。生徒たちに支えられながら、やれているというのが本当ですが、それが私達の大きな充実感であり喜びにつながるものであることは間違いありません。

今は、受験生たちとの「黄金の時」を、一日一日大切に噛みしめています。